



上賀茂だより

令和8年10月1日(木)
京都市立上賀茂小学校
校長 上原 誠

学校教育目標 自ら考え行動し 共に学ぶ 子どもの育成
～ 喜んで登校 満足して下校 ～

全国学力学習
状況調査の結果

〒603-8073 京都市北区上賀茂烏帽子ヶ垣内町1

TEL 711-0804 FAX 781-0480

上賀茂小学校ホームページアドレス <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/kamigamo>

(携帯電話・スマートフォンからもご覧になれます。)



4月23日に、本校6年生を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語・算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果(国語科・算数科)

国語・算数の全てにおいて、全国平均を上回っています。昨年度と同様に無解答率も低く、子どもたちが問題にしっかりと向き合い、最後まであきらめずに取り組もうとしていたことが分かります。

国語科より

全体的に全市平均を上回っており、全市や京都府と比べて正答率の低い問題は、特にありませんでした。また、無回答がとても少なかったです。

特に、文章の特徴として適切なものを選択する問題や、文章を読んで考えたことを自分の経験と結び付けてまとめて書く問題について正答率が高かったです。

一方、条件を取り入れた文章を適切に書くことに課題が見られました。

また、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる問題に課題が見られました。これは、問われている前後の文章の内容を正確に読み取ったり、それぞれの文章のかたまりがどんな役割をしているのかを把握できるようにしたりする力が必要です。日頃から、多くの文章に触れ、文章構成を把握することに慣れたり、書かれている内容を理解したりする経験を積むことが大切だと考えます。

算数科より

全体的に全市平均を上回っており、全市や京都府と比べて正答率の低い問題は、特にありませんでした。

特に、少数の仕組みについて問う問題や帯グラフからおよその割合を読み取る問題について正答率が高かったです。

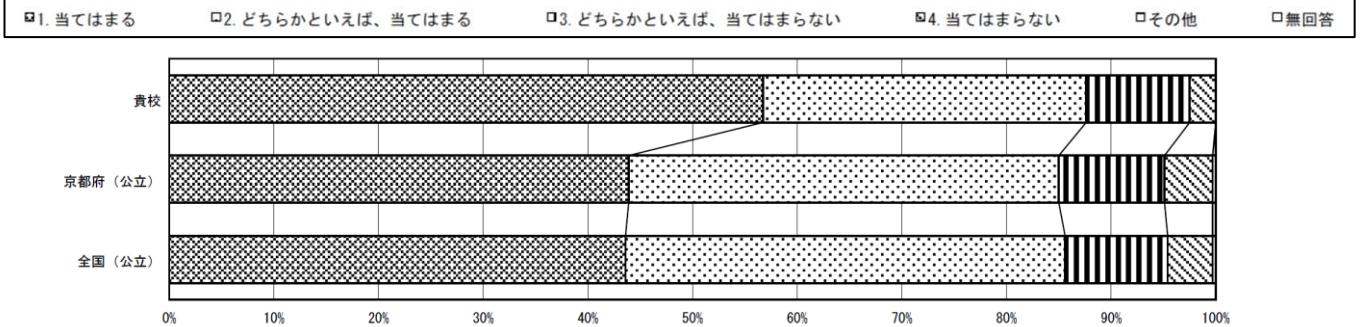
一方、体積の意味について理解しているかどうかをみることに課題が見られました。「 1cm^3 の立方体を36個使ってできた高さ4cmの直方体の体積」を求めるのに、 4×36 と立式した誤答が多かったことから、体積を求める式の意味を理解することが必要だと考えます。

また、どちらが混んでいるか単位量あたりの大きさを求める問題にも課題が見られました。この単元は割合につながる単元で、1あたりの量はどのくらいかという捉え方を理解することが大切です。こちらでも式と答えの意味を理解することが必要です。授業の中で、ただ答えを求めるのではなく、その意味を考えるようにしていきます。

「令和8年度「全国学力・学習状況調査」の結果について」は京都市教育委員会ホームページにおいても掲載予定です。

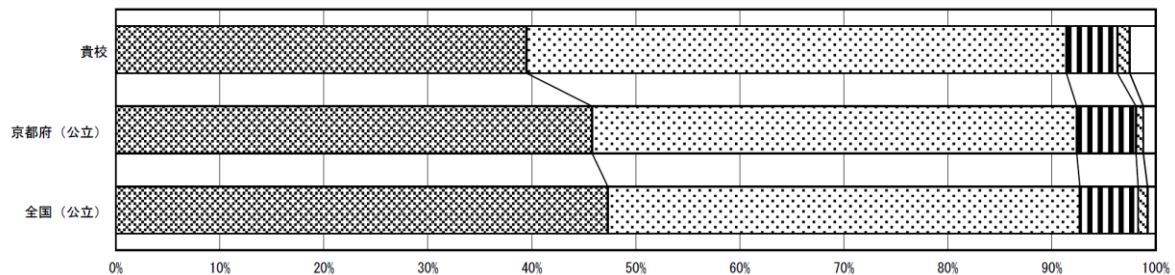
児童質問紙 調査より①

自分にはよいところがあると思いますか。



児童質問紙 調査より②

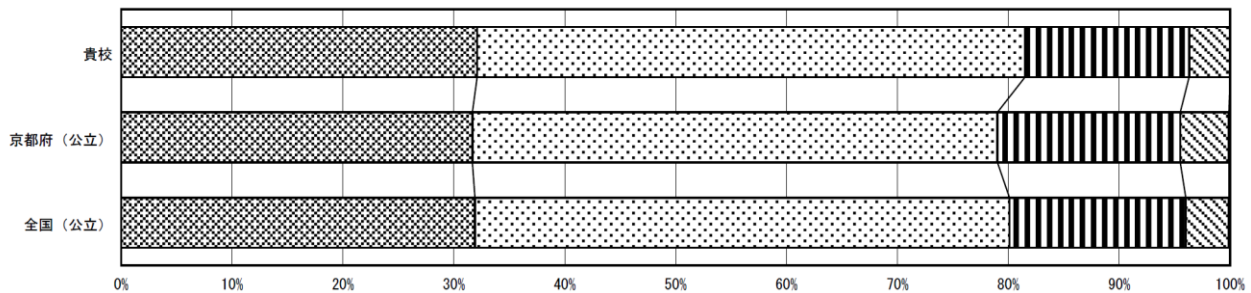
人が困っているときは、進んで助けていますか。



これらの質問では、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」と答えた割合が90%を超えています。しかし、「人が困っているときは、進んで助けているか」という項目については、当てはまると回答した割合が全市や京都府に比べて低かったです。自分によいところがあると思えることは自己肯定感につながります。また、人の役に立っていると思えることも自己肯定感を高めることにつながっていると思います。

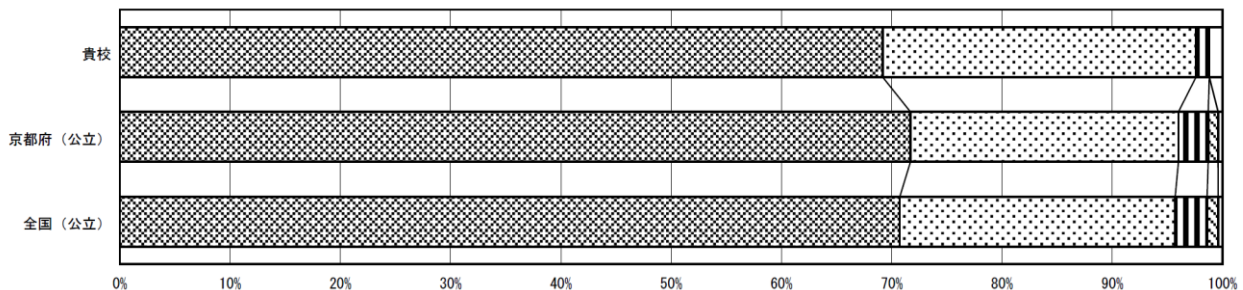
児童質問紙 調査より③

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。



児童質問紙 調査より④

人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



「地域や社会に貢献したい」と思う児童の割合は81.4%でした。「人の役に立ちたい」と思う児童の割合は97.5%と昨年度と同様高かったです。学校教育のみならず、家庭での子どもたちへの関わりや、地域の方々の温かい見守りや支えがある中で、本校の子どもたちが心豊かに成長していると感じます。子どもたちもいずれは社会に出ていきます。これからも、学校・家庭・地域が連携・協力しながら、子どもたち一人一人が未来に希望をもち、夢に向かって自ら道を切り拓いていく力をつけていきたいと考えています。